

関係人口創出・拡大のための中間支援組織の
提案型モデル事業 成果報告会

団体名：株式会社Next Commons

都市部

- ◎ 職場以外の居場所のニーズの高まり (先行き不透明な社会、コミュニティの欠落)
- ◎ 学び直し / 自己啓発に対して意欲的 (終身雇用制度の崩壊)
- ◎ 働き方や暮らし方の見直し (テレワークの推進、コロナ)

地方

- ◎ 関係人口維持のための体制整備が必要 (そもそも日本全体が人口減、圧倒的なプレイヤー不足)
- ◎ 広大なフィールド / 豊富な地域資源 (余白の可能性、低コスト)
- ◎ 暮らしの達人や伝統工芸などの技術者 (担い手不足、事業継承)

地方をキャンパス化し
学び合いを通じた交流を創出

暮らし・技術・土地・歴史を学ぶ場
つくる大学



運営事務局

講師と参加者のネットワークづくり (交流会等)
講師の発掘 / 講師協力者集め
メディア・SNS 発信による学生集め
宿泊可能施設の整備

NextCommonsLab遠野
NextCommonsLab加賀

【協力者】一般社団法人KYLO (設立予定)
遠野市役所、一般社団法人Next Commons Lab、
びゅうトラベル (JR東日本)、パーソン総合研究所



豊富な地域資源やリソースを舞台に学び合うことを通して
地域市民×都心部からの参加者×他地域のオンライン参加者が交流する
→学びの場に集まるコミュニティづくりで関係人口との継続的なつながりを維持していく。

つくる大学の存在自体を認知してもらうための取り組み

◎つくる大学通信等の発行と配布

- 講座、イベント情報やレポート、キャンパスからのお知らせなどを毎月掲載。新聞折込チラシなども制作。
- 地域の店舗や図書館、観光案内所などに配置。



◎定期的な情報発信

- SNSのつくる大学アカウントからイベントや講座のレポートやキャンパスの様子等を定期的に発信。

◎口コミでの認知度アップを狙った企画への無料招待枠の設定

- 地域で発信力がある人を企画に無料招待し、つくる大学や企画に関して情報をSNSや口コミ等で伝えてもらうため、招待枠を用意。

◎つくる大学の広報冊子作成

- つくる大学のコンセプトやこれまでの企画、つくる大学に関わってくれた人物等を紹介する広報冊子の作成。

地域内外の人が出会う、関係人口創出の入り口となる機会づくり

	講座開催回数	講座参加者数	うち首都圏からの参加割合
8月	5	26	11.5%
9月	6	25	8%
10月	5	40	2.5%
11月	6	27	11.1%
12月	6	29	17.2%
1月	3	15	53.3%
2月	1(未6)	9	5%
合計	32	171	12.85%

首都圏から講座に参加する参加者割合 目標60% 実績12.85%

◎連続講座「地球環境を考える」

- 地域外の講師を呼び、地域内の参加者を巻き込んで開催できた事例。
- 参加者数：38名
(うち首都圏2名)



◎て・くらす遠野コラボ企画

- 「まちの広報誌をつくろう」
- 地域内の他団体と連携して企画し、地域内外の参加者が共にワークショップに取り組んだ事例。
- 参加者数：6名
(うち首都圏1名)



◎定期サークル「森あそびくらぶ」

- 地域内の講師と企画し、地域内外の参加者が交流した事例。
- 参加者数：14名
(うち首都圏1名)



関係人口創出・拡大につながる個別のコーディネートの実施

<クリエイターインレジデンスの事例>

◎クリエイターインレジデンスとは



その地域のことを知りたい！
いつもと違う環境の中で制作活動をしたい！

首都圏のクリエイター

地域に長期滞在

- ・取材、フィールドワーク
- ・制作活動
- ・地域の人との交流

アウトプットの間

滞在で得た学びや制作物を地域の人と共有

応募者数 8名

受入人数 4名

<参加したクリエイター>



アーティスト
東京在住

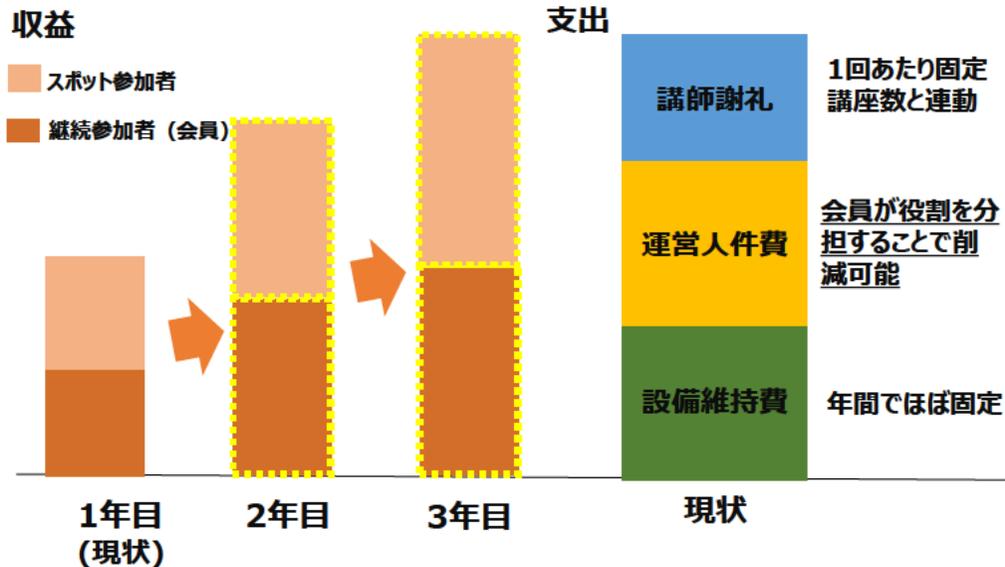
相談できる人/コーディネーターがいたのがよかった。地域の日常に自然と溶け込んでいける環境があつてよかった。

住むのに近い形で滞在できる環境が整っていたのがよかった。もっと深く知りたがり、地域の人と話をしたいと思った。



写真家・ライター
千葉県在住

3.自立化・自走化の検討



継続参加者 (会員) にリソースを開放していき公共空間として事務局運営を分担していく

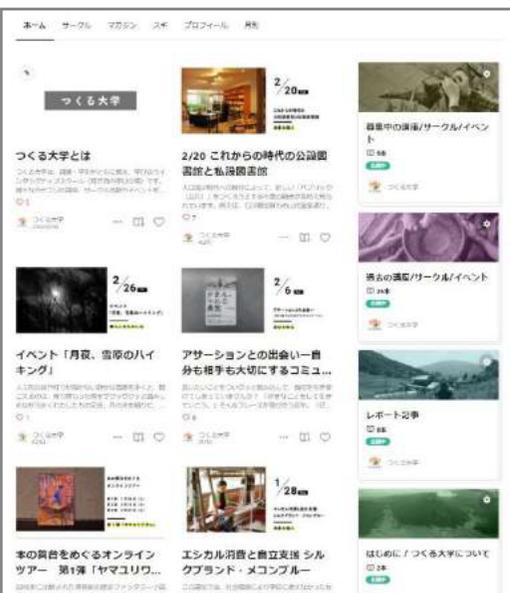
4月～キャンパスをつくる大学生 (会員) がいつでも使えるワークスペース、イベントスペースとして開放。ワンデイキッチン、イベント開催などのチャレンジを後押し。地域住民も外から来る人も主体になれるオープンな場づくり。



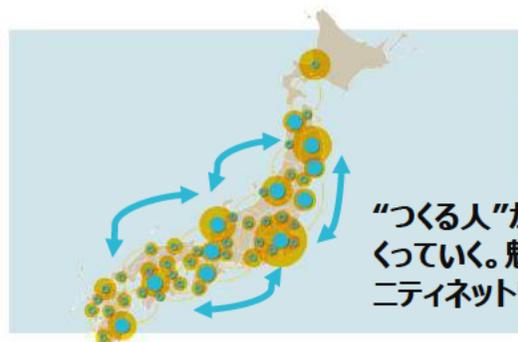
【参考】石川県加賀市「みんなの図書館さんかく」

4.他地域への横展開の可能性の検討

▼つくる大学note (ブログ) に加賀拠点の講座が掲載されている様子



「おんせん図書館が作りだす『温泉街2.0』の未来』には首都圏のほか遠野の住民も参加した。講座は毎回インタラクティブな交流が行われる。



首都圏⇔地方 だけでなく

首都圏⇔地方⇔地方 がうまれた

“つくる人”があつまるコミュニティを分散連携型につくっていく。魅力的なローカルと深く接点もてるコミュニティネットワークに展開。

成果と今後の展開

- ・関係者が多い企画・製作会社、グリーンツーリズムNPO団体、博物館等とのコラボレーション企画は参加人数が増える傾向。
- ・県外から、現場を求めるニーズが高まっている。コロナの状況をみながら現地参加型の講座やイベントを徐々に復活させていく。
- ・蓄積してきた多様なコンテンツや講師ネットワーク、運営ノウハウを活かし、企業人の学びの場として展開。企業研修などのプログラムを共同開発し研修場所やワークショップの実践地に。(1月に2泊3日の短期ワーケーションプログラムの開催を予定していたがコロナの影響を考慮し来年度に延期。)

クリエイターインレジデンスの詳細



東京在住 写真家・ジャーナリスト
滞在期間：2020年8月22日～9月17日

<プロフィール>

東京都在住。各国の歴史的イベント・文化・民族を取材する写真家・ジャーナリストとして活動。アイスランドの妖精研究をおこなう中で日本における民俗学において重要な場所である遠野を知る。



千葉在住 写真家・ライター
滞在期間：2020年7月4日～7月12日

<プロフィール>

千葉県在住。写真の作品制作や執筆を通して、地域の魅力を再発見している。遠野市の鹿踊や神楽に関して興味があり、伝統芸能や祭りの分野で新しい表現を探る。

事務局のコーディネート

地域の取材先、フィールドワーク先等を紹介・案内

<滞在中の過ごし方>
フィールドワークや撮影
・葉タバコ栽培に注目。地域の農家等にヒアリング。起きている物事の裏にある背景や人々の息遣いのようなものを取材。



<滞在中の過ごし方>
ヒアリングや撮影
・遠野の郷土芸能団体に足を運び、取材や撮影を実施。郷土芸能の背景にある進行や供養の捉え方も考察。

<アウトプット>
これまでの経験や滞在中の調査をふまえたプレゼンテーションを行う。

アウトプット企画の相談、広報、運営

<アウトプット>
滞在中に撮影した写真の展示会と、取材に関するプレゼンテーションを行う。

<滞在期間終了後>
・今回の滞在に関するフィードバック
・SNS等で滞在中の様子を投稿
・つくる大学の講師としてオンラインで企画実施



<滞在期間終了後>
・今回の滞在に関するフィードバック
・滞在に関するレポートをブログで投稿
・その後も取材を継続するために地域を訪問しヒアリング等を実施

定期的な情報交換。その後も地域に関わる際のサポート・コーディネートの実施

◎ つくる大学で講師を担当したり、参加したり
つくる大学の講座をSNSで広報してくれる存在に

◎ 滞在をきっかけにさらに深い調査のため、
繰り返し遠野を訪問し情報発信する存在に。

挑戦の機会の提供とコミュニティ運営



地域の現役中学生



過去のつくる大学の講座参加者が、中学生の頑張りを応援するため、ノートパソコンを贈った。その後も様々な相談に乗っている。



Uターンで地域で起業



県内アーティスト



キャンパスで個展とグッズを販売。期間中は県外からもお客さんが訪れた。

起業したが店舗を持っておらず、つくる大学のキャンパスを定期的にレンタルし、「移動式整体」を開く。

つくる大学のポスターを見て自分も何かやってみたくてスタッフに自ら声をかけ「大人の夏の自由研究会」「SDG'sの勉強会」を共に企画・開催。キャンパスにもよく訪れ、企画や編集を学ぶ。自宅でも企画書をつくりたいとPC譲渡を募る。